

養育者—子ども間相互行為における責任の文化的形成
Cultural formation of responsibility in caregiver-child interactions

高田 明 (Takada Akira)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授



研究の概要

本研究では相互行為における応答の力が基礎となり、子どもと養育者の双方が責任を徐々に発達させると考えて責任が文化的に形成される仕組みを探求する。(1)乳児の規則性を用いた行動の相互調整、(2)初期音声コミュニケーションにおける音楽性、(3)乳幼児によるエージェンシーの表示と解釈、(4)相互行為としての模倣活動について検討を進めている。

研究分野：人文学

科研費の分科／細目：文化人類学／文化人類学・民俗学

キーワード：責任、社会化、音楽性、模倣、文化学習

1. 研究開始当初の背景

近年、社会への影響力を増している発達研究(e.g. Kaye, 1982; Tomasello, 1999)は、次のような発達観を描いてきた。乳児は様々な生得的能力を備えて生まれ、その直後から養育者と相互に行動を調整していく。模倣が可能になる頃からはその社会で育まれてきた文化を学習し始める。

だがこうした発達観は実のところ、極めて限定された時代・地域の研究から導かれている。そこで代表者は、南部アフリカの「狩猟採集民」サンを対象とし、養育者と乳児の相互行為の発達について研究してきた。

2. 研究の目的

相互行為における応答の力が基礎となり、子どもと養育者の双方が責任を徐々に発達させると考えて、責任が文化的に形成される仕組みを探求する。

3. 研究の方法

上記の目的に迫るために、(1)乳児の規則性を用いた行動の相互調整、(2)初期音声コミュニケーションにおける音楽性、(3)乳幼児によるエージェンシーの表示と解釈、(4)相互行為としての模倣活動という研究項目における文化の位置づけについて検討を進めている。

4. これまでの成果

H19年度から、日本国内において乳幼児が

いる家庭を定期的に訪問し、養育者—乳幼児間の身体的相互行為、初期音声コミュニケーション、やりとり活動、模倣活動に関する動画資料を収集している。また米国及びアジア・アフリカ諸国でも上記に対応する動画資料の収集を行っている。これまでの分析から以下のパースペクティブが得られた。

近年の赤ちゃん研究は、母子間相互行為が社会システムが形成される過程だと見ている(Kaye, 1982; Tomasello, 1999)。ここでいう社会システムは、個々のメンバーが相手の行動を予測できることおよび共通の目的をもつことを要件としている。この要件を満たし、社会システムに参加できるようになって初めて、子どもはその社会で育まれてきた文化を学習し始める。

だが私たちの調査データによれば、乳児が他者の意図を理解するずっと以前から養育者は乳児をその文化に特徴的な活動の枠組みに巻き込もうとしている。乳児は近接する文脈に応答し、その参与形式は日々質的に変化していく。この見方をとれば、文化は(近年の赤ちゃん研究が仮定するような)心の中に構築されるシステムではなく、子供と他者が協働して社会的な意味を実現する、行為の組織だといえる。そして実際の乳児を含む相互行為の分析を進めていくことで、赤ちゃん研究の主要な課題の1つとして文化にまつわる考察を位置づけるとともに、これまで行為と意味の問題を扱ってきた人類学、社会学、言語学などに近年の赤ちゃん研究の成果を

接合することが可能になる。

上述のパーспекティブを得て、代表者と研究協力者との協働のもとで研究が進んでいる。以下に進行中の研究の例をあげる。

(1)乳幼児の意図的コミュニケーション能力の発達において重要な契機となる共同注意と社会的参照について相互行為論的な分析を行った。その結果、初期の共同注意と社会的参照が成立するためには、社会的相互行為の時間的な連鎖関係及び情動表出時の環境との関わりが重要であることが示された。

(2)複数の実験的研究から、養育者－乳児間相互行為が発達するにつれて、養育者は乳児音声に対して聴覚的な感受性を変容させ、応答性を向上させることを示した。さらに発達初期にみられる、自らの音声を探索する「ひとり遊び」発声が音楽性の原初的段階として位置づけられることが示唆された。

(3)双方向のやりとり活動を可能にする条件には、(a)共同化された行為の協応、(b)連鎖のイニシアティブの知覚、(c)多人数による養育者－乳児間相互行為における意味のトライアングレーション、(d)相互行為におけるテリトリー性の理解などがあることを示した。様々な文化の子どもは対面的な相互行為に直面する時、これらを資源として相互理解を達成する。これが相互行為の参加者が行為の意味を交渉する基盤となり、こうした意味の交渉の歴史の上にシステムとしての家族が成り立つことが示唆される。

(4)成人の文法や「心の理論」の獲得以前とされる幼児でも、母親とのやりとりにおいて、自分の発言が誤解されていることに気づいて修正するという複雑な行為が可能であることが示された。こうした事例の分析を蓄積することで、相互理解の発達と相互行為能力の発現・発達の関係を経験的に明らかにすることができる。

(5)相互行為の発達過程における記憶の働きについて以下が明らかになった。子どもたちの記憶は、初めは行為連鎖に埋め込まれた身体的なものである。その後、行為が記憶によって生みだされるメカニズムがこれに重なる。同時に、相互行為の流れの中で起動する予期の範囲は次第に広がっていく。これを反映して、相互行為の流れの乱れに対する応答は感覚運動スキーマの繰り返しから、他者による次の行為を見ながら待つ、文化的に許容される行為を創発的に展開するといったものに変化する。こうした過程を通じて、子どもたちは世代を超えて文化的に特異な活動を継承、再創造することが可能になる。

これらの研究は、本研究の目的に沿いつつ、乳幼児の発達研究の成果と行為と意味についての研究を接合した好例といえよう。

5. 今後の計画

世界の様々な地域（日本を始めとするアジ

ア、北中米、アフリカ）で動画資料を収集する。各研究項目について今後の研究計画の基本方針を記す。

(1)乳児の規則性を用いた行動の相互調整

子どもは優れた能力を備えて生まれるが、それへの社会の対応は様々である。養育行動がどう形成され、子どものどんな感覚運動的行動を引き出すのかを明らかにする。

(2)初期コミュニケーションにおける音楽性

乳幼児に向けた呼称、子守歌、音楽的な遊びでは、しばしば洗練された形式が発達している。こうした形式やその基底にある規則の多様性を明らかにする。また乳児の発声がどのように組織化されるのかを分析する。

(3)エージェンシーの表示と解釈

やりとり活動の基礎となる共同注意及び社会的参照に関する分析を進め、養育者による促し、指さし、命令などが乳幼児の注意を獲得する諸条件を明らかにする。

(4)相互行為としての模倣活動

行為連鎖という視点をとり入れることで、（隣接諸分野に大きな影響力を持ってきた）心理学的な模倣研究の視座を拡張し、実際に文化が創造・再創造される過程を論じる。

6. これまでの発表論文等

Takada, A. (2010) Changes in Developmental Trends of Caregiver-Child Interactions among the San: Evidence from the !Xun of Northern Namibia. *African Study Monographs, Supplementary Issue*, 40, 155-177.

高田 明 (2010) 相互行為を支えるプラグマティックな制約：セントラル・カラハリ・サンにおける模倣活動の連鎖組織。In 木村大治・中村美知夫・高梨克也(編)、*インタラクションの境界と接続：サル・人・会話研究から*。昭和堂(pp.358-377)。

高田 明 (2009) 赤ちゃんのエスノグラフィ：乳児及び乳児ケアに関する民族誌的研究の新機軸。 *心理学評論*, 52(1), 140-151.

Takada, A. (2009) Recapturing space: Production of inter-subjectivity among the Central Kalahari San. *Journeys: The International Journal of Travel and Travel Writing*, 9(2), 114-137.

Takada, A. (2008). Kinship and naming among the Ekoka !Xun. In S. Ermisch (Ed.), *Research in Khoisan studies, No.22, Khoisan languages and linguistics: Proceedings of the 2nd International Symposium, January 8-12, 2006, Riezlern/Kleinwalsertal*. Cologne, Germany: Rüdiger Köppe Verlag Köln (pp.303-322).

ホームページ等

<http://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/>